



特定非営利活動法人
雨水市民の会

理事長 徳永 暢男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1

TEL : 03-3611-0573 FAX : 03-3611-0574

H.P : <http://www.skywater.jp/>

e-mail : office@skywater.jp

今後の活動を皆で盛り上げよう!

2007年度総会にご参加を 6月30日(土)・午後2時から

2006年9月にスタートしたNPO法人雨水市民の会では、長期的視野に立った活動戦略を理事会を中心に議論してきました。2007年度からはその具体的事業を展開していく予定です。今回の総会で提案する主な活動は次のようなものです。市民の会の転換点となる大変重要な総会です。会員の皆さんには総会にご出席いただき、積極的に事業にご参加してください。総会に先立ち、韓国雨水利用協会が最近作成したDVDも上映します。

なお、正会員で総会に参加できない方は、必ず同封の委任状を6月22日(火)までに事務局へファックスまたは郵送(メールは不可)で送付してください。賛助会員、学生会員の方も是非ご参加ください。また、会員登録を済ませてない方は手続きをお願いします。

主な活動案

新たな雨の環境体験学習事業

すみだ環境ふれあい館を拠点に『雨塾』を開講します。ここには、水、雨及び地球環境に関する環境体験学習プログラムを開発している日本の第一人者を講師に招き、雨水環境体験学習のスキルを磨きます。また、『雨の楽校』を立ち上げ、「雨の文芸の調査研究」、「雨の絵本ひろば」、「すみだ雨のツアー」などを実施します。また、昨年に引き続き「すみだ環境ふれあいまつり」にも参画します。

スカイウォータープロジェクト

地下水のヒ素汚染と塩害に悩むバングラデシュの海岸地域において、雨水利用のモデル地域、「雨水村」事業を地元NGOと協力して立ち上げます。また、韓国雨水利用協会(KRCSA)の

協力を得て、韓国雨水利用スタディツアーを実施します。

雨水利用のグッズ開発

雨水利用施設が増える中で、市民や企業からの要望に応え、雨水利用機器、配管及び給水栓などの雨水表示マークを開発し、普及していきます。

ニュースレターとホームページの刷新

会員向けのニュースレター「あまみず」を産官学民の雨水利用ネットワークのツールとして活用できるよう、紙面を全面刷新します。NPO法人として今年刷新したホームページを、世界にも発信していくために英語版を充実します。これからの広報の経費の一部は、企業からの広告でまかいます。

総会のご案内

日時: 6月30日(土) 午後2時より

場所: すみだ環境ふれあい館

墨田区文花1-32-9 電話: 03-3611-6355

東武亀戸線「小村井駅」徒歩10分、京成線・半蔵門

線「押上駅」徒歩15分

内容:

1 DVD上映(韓国雨水利用協会制作)

“雨水利用は地球を愛す”

“災害の雨から恵みの雨へ”

2 総会

2006年度事業報告・決算報告

2007年度事業計画・予算案

総会終了後交流会(会費: 3000円)

会場: すみだ中小企業センター内ビストロライン

電話: 03-5631-5557(すみだ環境ふれあい館近く)

雨水利用国際協力事業に地球環境基金助成が決定!

2006年度に引き続き、「モンスーン地域におけるローコスト雨水タンクの開発と普及の推進事業申請」に地球環境基金から570万円の助成金がつきました。

飲料水としての地下水が有害なヒ素や塩分で広域に汚染され、雨水利用の推進が求められているバングラデシュにおいて、雨水市民の会がプロジェクトを開始して早7年。この間、地元のNPOと協働してローコストリングタンクを開発し、希望する家族に約170基設置してきました。

2007年度は、これまでの成果を雨水利用システ

ムの設計・施工及び管理マニュアルにまとめるとともに、今年から地元NGOとスタートさせた雨水利用のモデル地域事業、「雨水村」にこのマニュアルを元にして理想的なモデルプラントを設置します。

また、今年からすみだ環境ふれあい館において、毎週第3日曜日を「雨水利用の国際協力活動の日」として、セミナーや報告会を行います。雨水利用の若者グループが企画しています。会員のみなさん、是非お気軽に参加ください。

韓国の雨水利用リーダーシップワークショップ報告会

5月20日(土) すみだ環境ふれあい館にて



4月29日～5月5日に、村瀬事務局長、関口智久会員、伊藤泰代会員が、ソウルで開かれた韓国雨水利用協会が主催する雨水利用リーダーシップワークショップに参加しました。5月20日にすみだ環境ふれあい館で報告会を行いました。参加者は35名で、部屋は満杯状態でした。

関口、伊藤会員は、ホームステイを通じて韓国の家庭生活や学生たちとのふれあいも経験しました。ソウル市の大規模開発ビルであるスターシティには、防災・洪水対策・水の有効利用の観点から、雨水タンク3000トンが設置されました。現在、ソウル市の条例で一定規模以上の建築物に雨



水利用することが義務付けられています。スターシティの場合は、条例制定の少し前だったので、市当局が建築面積を3%増すことを認めて雨水利用にかかるイニシャルコストを相殺し、導入されたそうです。

また、埋められて高速道路となっていたチョンゲチョン(清溪川)が復活したところを視察しました。大変な工事をして高速道路を壊し、今は町の憩いの場所として親しまれています。ソウル市民の自然や歴史に対する熱意に共感したそうです。(朝)



「プージェー」アンコール上映会報告

昨年9月30日に環境ふれあいまつりで「プージェー」を上映した際、それを見た墨田建設業協会の会員の方が、豊かさの意味を改めて考えるためにも、是非多くの仲間に見てもらいたいという願いから、上映が実現しました(2月23日(金)・曳舟文化センター)。上映は当会が引き受けました。関係者のみなさん、お疲れ様でした。

「あまみず」がリニューアルします

雨水利用や雨の大切さをもっと広く知ってもらい、産官学民の雨に関する情報を集約してそのネットワークに役立てるため、内容もデザインも刷新した「あまみず」となります。12ページ・カラー刷で季刊とし、第一弾は9月1日発行です。お楽しみに!

